

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	5 4 %	自校A B層の割合	5 6 %

目標達成に向けた取組				
3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立	
学校全体の取組	○教員の授業力、実践力の向上をめざした授業研修の推進 ・学年等の枠を超えて教科、テーマ別に分科会を構成し、チームで教材研究・授業準備を進め、研究授業を実施する。 ・分科会での活動を通し、ベテラン・中堅教員が若手教員を指導・育成する。 ○ICT研修の実施 ・タブレット端末の授業、学力向上の取組での効果的な活用をめざした研修を計画的に実施する。 ○若手教員の指導・育成 ・1，2，3年次の教員を中心とした研修を毎月実施する。 ○教科担任制等の推進 ・教科担任制等の実施を通して、より深く教材研究を行ったり、繰り返し授業を実施したりすることを通して指導力向上を図る。	○全校一斉朝学習の実施 ・タブレット端末、ミライシードなどを活用し、基礎的な学習に集中して取り組む時間を設定する。 ○教職員による放課後補習（ステップアップ学習）の実施 ・学習を苦手としている児童を中心として、教職員が一人一人の課題に応じた補習を実施する。 ・補習の状況を踏まえて、授業での個別指導等の改善・充実を図る。 ○民間補習の活用 ・学習を苦手としている児童を中心として補習を実施する。 ・補習の状況を踏まえて、授業での個別指導等の改善・充実を図る。 ○教科担任制等の推進 ・5，6年社会・理科において教科担任制を実施する。 ・他学年を含め他教科においても単元ごとの教科担任制、交換授業、合同授業などを実施し、学年内で連携・協力して学力向上を推進する。	○「二葛西小の約束」「二葛西小の学習ルール」の徹底 ・学校での学び方の基本を理解させるとともに、こうした内容を自分で意識し、自分で振り返り、自分で取り組んでいく姿勢を伸ばしていく。 ○「タブレット活用スキル」の育成 ・学年の発達段階に応じて、学校で整理した「タブレット活用スキル」を系統的に育み、自ら進んで学習に取り組んでいくことのできる基礎を培う。 ○低学年からの学習習慣の確立 ・就学前保護者会や入学後の保護者会などを通して低学年からの学習習慣確立の重要性をていねいに説明し、家庭と連携しながら取組を進める。 ○目標に向かって取り組む経験の充実 ・学習面に限らず、体力テストや学校行事などにおいても目標をもって取り組み、実施後の振り返りを通して自分のよさに気づき、自ら進んで取り組もうとする意欲の向上を図る。	
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	○不適応対策委員会の推進 ・委員会において、学力を視点とした実態把握、課題の洗い出し、方策の立案、実践後の検証をなども行い、指導力の向上を図る。 ○関係教職員の連携強化 ・スクールカウンセラー、特別支援教室巡回教員及び専門員、介助員等と学級担任や学年主任の連携を密にし、組織的な指導・支援を進め、教員の指導力を高める。	○個別指導の充実 ・授業で練習問題に取り組む場面や朝学習の時間などを中心に、担任等による個別指導を実施する。 ・1年から3年については、学年アシスタントが授業の補助にあり、児童の支援にあたる。 ○放課後補習の活用 ・教職員及び民間の補習を積極的に活用する。 ○家庭との連携強化 ・個人面談や保護者会をはじめ実態や課題、目標や当面の取組などを共通理解し、家庭学習の充実を支援する。	○個別指導の充実 ・学習内容だけでなく、学習に向かう姿勢や習慣についても個別の声かけ、支援を充実する。 ○関係教職員の連携強化 ・スクールカウンセラー、特別支援教室巡回教員及び専門員、介助員等と学級担任や学年主任の連携を密にし、見通しをもちながらスモールステップでの指導を進める。 ○家庭との連携強化 ・個人面談や保護者会をはじめ実態や課題、目標や当面の取組などを共通理解し、指導・支援を展開する。	
成果指標	・「授業が分かりやすい」という児童90%以上 ・「資質・能力の向上に努めている」という教員95%以上 ・「授業の工夫がなされている」という教員90%以上	・「漢字や計算などの基礎的な力を身に付けている」という保護者85%以上 ・「学力向上の活動が充実している」という教員90%以上 ・「基礎的・基本的な学力が定着している」という教員80%以上	・「学力を高めようとしている」という児童90%以上 ・「学習によく取り組んでいる」という保護者80%以上 ・「家庭で学習している」という保護者80%以上 ・「学習規律が確立されている」という教員85%以上	